

教議第46号

令和7年度使用教科用図書（義務教育諸学校特別支援学級用）の採択について

令和7年度に呉市立義務教育諸学校の特別支援学級で使用する教科用図書を採択する。

1 文部科学省著作教科用図書

(1) 小学校・義務教育学校（前期課程）

生活科，国語科，算数科，音楽科

(2) 中学校・義務教育学校（後期課程）

国語科，社会科，数学科，理科，音楽科，職業・家庭科

2 学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書（一般図書）

（1）小学校・義務教育学校（前期課程）

教科名・種目名	発行者（略称）	図 書 名
国語	偕成社	五味太郎・言葉図鑑（5）つなぎのことば
国語	学研	学研の幼児ワーク6歳ひらがなことば
国語	学研	学研の頭脳開発でんしゃのひらがなれんしゅうちょう改訂新版
国語	学研	学研の幼児ワーク5歳ひらがなことば
国語	学研	小学生向辞典・事典レインボーことば絵じてん
国語	こばと	初級編ステップアップことば・もじ
国語	三省堂	こどももののなまえ絵じてん増補新装版
国語	小学館	小児科医がつくったゆっくりこくごプリント
国語	同成社	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」3（改訂版）（文章を読む、作文・詩を書く）
国語	同成社	ゆっくり学ぶ子のための国語4
国語	同成社	ゆっくり学ぶ子のための国語5
国語	フレーベル	NEWおしゃべりアンパンマンあいうえおであそぼう！（第2版）
国語	リーブル	しりとりにまじよ！たべものあいうえお
国語	喜楽研	ゆっくりていねいに学びたい子のためのことばあそび1
国語	喜楽研	ゆっくりていねいに学びたい子のためのかたかなワーク
国語	喜楽研	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク1－2
国語	喜楽研	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク5－1
算数	学研	学研の幼児ワーク3歳かず
算数	学研	学研の頭脳開発でんしゃのかず・とけいれんしゅうちょう
算数	金の星社	音のでるとけいえほんいまなんじ？
算数	くもん出版	かず・けいさん2やさしいすうじ
算数	こばと	中級編ジャンプアップとけい・おかね・カレンダー
算数	こばと	初級編ステップアップかず・すうじ
算数	こばと	初級編ステップアップさんすうⅠ
算数	こばと	中級編ジャンプアップさんすうⅡ
算数	同成社	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」4（くり上がり、くり下がり、2けたの数の計算）
算数	かもがわ	算数文章題イメージトレーニングワークシート2かけ算・わり算
算数	喜楽研	教科書にそって学べるさんすう教科書支援ワーク1－7
算数	喜楽研	ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント2－2
算数	喜楽研	ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント3－1
算数	喜楽研	ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント4－1
生活	岩崎書店	どこにいる？だれがいる？さがせ！日本の歴史
生活	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと（3）お金のこと改訂
生活	旺文社	小学社会社会問題の正しい解き方ドリル3年三訂版
生活	学研	あそびのおうさまBOOKどんだんぬるほん
生活	学研	改訂版家庭科の基本
生活	学研	キッチンでおやつマジック大百科
生活	学研	はじめての都道府県ドリル
生活	学研	学研の図鑑LIVEスペシャル新版いちばん！の図鑑

教科名・種目名	発行者（略称）	図 書 名
生活	学研	おうちモンテッソーリモンテッソーリ知育こうさくワーク
生活	学研	めくって学べるもののしくみ図鑑
生活	学研	めくってはっけん！せかいちずえほん
生活	金の星社	おてつだいの絵本
生活	金の星社	デザインあみるほん
生活	くもん出版	こうさく3はじめてのかみこうさく2集
生活	くもん出版	こうさく4かみこうさくあそび
生活	くもん出版	漢字にぐーんと強くなる小学3年生
生活	くもん出版	CD付き童謡カード第2集
生活	くもん出版	くもんの小学ドリル英語3・4年生はじめてのアルファベット
生活	講談社	講談社の年齢で選ぶ知育絵本4・5・6さいのきもちをつたえることばのえほん
生活	国土社	たのしい図画工作9うごくおもちゃ
生活	合同出版	子どもとマスターする49の生活技術イラスト版手のしごと
生活	こぼと	中級編ジャンプアップとけい・おかね・カレンダー
生活	三省堂	こどもマナーとけいご絵じてん
生活	三省堂	こどもぼうさい・あんぜん絵じてん
生活	小学館	小学館の図鑑NEO野菜と果物
生活	小学館	小学館の図鑑NEO〔新版〕動物DVDつき
生活	小学館	小学館の図鑑NEO〔新版〕魚DVDつき
生活	小学館	小学館の子ども図鑑プレNEOはるなつあきふゆ楽しく遊ぶ学ぶきせつの図鑑
生活	小学館	タッチペンで音が聞ける！ドラえもんはじめての英会話辞典
生活	チャイルド	チャイルドブックこども百科ふしぎ、ふしぎ！かがくあそび図鑑
生活	ナツメ社	子どもの生きる力を育てるせいかつの絵じてん
生活	福音館	福音館の科学シリーズあそびのレシピ
生活	ポプラ	リサイクル工作であそぼう！手づくりおもちゃ200（1）うごかす
生活	朝日新聞	あいうえおABCタブレット音でるゝ知育絵本
生活	一声社	コピーしてすぐ作れるおもちゃ1まわる！とぶ！すべる！おもちゃ
生活	カエル	DVDつきケロポンズのいち・にのたいそうBOOK
生活	主婦と生活	都道府県地理カード改訂版
生活	永岡書店	木製知育パズル都道府県パズル
生活	日東書院	火も包丁も使わない！はじめてのBOOK楽チンきちんとごはん編
生活	日本図書	おやくそくえほんはじめての「よのなかルールブック」
生活	パイインタ	はじめてのにほんちずえほん
生活	リベラル社	10才までに学びたいマンガ×くり返しでスイスイ覚えられる47都道府県と世界の国
体育（保健）	あかね書房	からだがげんきになる本1けんこうをしろ！4つのひみつ
体育（保健）	偕成社	子どもの健康を考える絵本（5）こんなときどうするの？
体育（保健）	偕成社	子どもの生活（6）じょうぶなからだになれるよ！
体育（保健）	学研	めくって学べるからだのしくみ図鑑
体育（保健）	講談社	講談社の動く図鑑MOVE人体のふしぎ新訂版
体育（保健）	世界文化社	からだのふしぎけがとびょうきのナゾ

教科名・種目名	発行者（略称）	図 書 名
体育（保健）	ひかりのく	改訂新版体験を広げるこどものずかん9からだとけんこう
体育（保健）	大泉書店	だいじだいじどーこだ？はじめての「からだ」と「性」のえほん
体育（保健）	永岡書店	めくって発見！えほんからだのしくみ
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと（6）友だち関係（気持の伝え方）
道徳	偕成社	エリック・カールの絵本みんないきてるみんなでいきてる！
道徳	学研	名作よんでよんでおやすみ前のお話366話4冊入り
道徳	学研	キッズ・えほんシリーズさがしてみよう！マークのえほん改訂版
道徳	金の星社	おこる
道徳	金の星社	おもいやりの絵本みんなのきもちがわかるかな？
道徳	国土社	ルールとマナーを学ぶ子ども生活図鑑（2）学校生活編
道徳	合同出版	絵でわかるこどものせいかつずかん4おつきあいのきほん
道徳	合同出版	イラスト版子どものアンガーマネジメント怒りをコントロールする43のスキル
道徳	合同出版	発達協会式ソーシャルスキルがたのしく身につくカード1どっちがカッコイイ？
道徳	こばと	中級編ジャンプアップとけい・おかね・カレンダー
道徳	三省堂	こどもマナーとけいご絵じてん
道徳	小学館	おひさまセレクション勇気をくれるおはなし16話
道徳	草思社	みんなのためのルールブックあたりまえだけど、とても大切なこと
道徳	主婦の友	きみのこころをつよくするえほん
道徳	汐文社	あいての気持ちを考えて話そうちくちくことば・ふわふわことば3あいてがすきなものに「どこがいいの？」！？ほか
道徳	日本図書	もうふりまわされない！怒り・イライラ
道徳	日本図書	おやくそくえほんはじめての「よのなかルールブック」
道徳	日本図書	こどもルールブックよくできました！
道徳	光村教育	せかいでいちばんつよい国

(2) 中学校・義務教育学校(後期課程)

教科名・種目名	発行者(略称)	図 書 名
国語	偕成社	下村式となえてかく漢字練習ノート小学4年生改訂2版
国語	小学館	小児科医がつくったゆっくりこくごプリント
国語	同成社	ゆっくり学ぶ子のための「こくご」3(改訂版)(文章を読む、作文・詩を書く)
国語	東洋館	改訂新版くらしに役立つ国語
国語	東洋館	くらしに役立つワーク国語
国語	清風堂書店	10分間書く力がつくプリント低学年1・2・3年
国語	たいらか	いーらぼステップワーク1 10歳からのことばトレーニング
国語	本の泉社	新小学校漢字1026字音読で楽しく学べる漢字童話
社会	岩崎書店	どこにいる?だれがいる?さがせ!日本の歴史
社会	学研	はじめての都道府県ドリル
社会	学研	やさしくまるごと小学社会改訂版
社会	東洋館	改訂新版くらしに役立つ社会
社会	日本教育研	ひとりだちするための社会
社会	ジアース	知的障害・発達障害の人たちのための見てわかる社会生活ガイド集
社会	JTB	るるぶ地図でよくわかる47都道府県の歴史大百科
社会	高橋書店	しゃかいのふしぎなぜ?どうして?1年生
地図	小学館	ドラえもんちずかん2せかいちず
地図	成美堂出版	いちばんわかりやすい小学生のための学習日本地図帳
数学	旺文社	とってもやさしい中2数学三訂版
数学	小学館	小児科医がつくったLD児・ADHD児のためのゆっくりさんすうプリント10までのかず
数学	同成社	ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」4(くり上がり、くり下がり、2けたの数の計算)
数学	東洋館	改訂新版くらしに役立つ数学
数学	東洋館	くらしに役立つワーク数学
数学	喜楽研	ゆっくりていねいに学べるどの子もわかる算数プリント3-1
数学	清風堂書店	中級算数習熟プリント小学4年生
理科	旺文社	とってもやさしい中1理科改訂版
理科	旺文社	小学総合的研究わかる理科実験・観察新装版
理科	学研	ビジュアル理科事典
理科	小学館	小学館の図鑑NEO花DVDつき
理科	小学館	ドラえもんの理科おもしろ攻略[新版]力と電気・音・光がわかる
理科	東洋館	改訂新版くらしに役立つ理科
美術	ブロンズ新	らくがき絵本五味太郎50%
美術	河出新社	けずってスクラッチアートひみつの森でかくれんぼ
保健体育	学研	めくって学べるからだのしくみ図鑑
保健体育	講談社	講談社の動く図鑑MOVE人体のふしぎ新訂版
保健体育	合同出版	子どもとマスターする58のからだの知識イラスト版からだのしくみとケア
保健体育	東洋館	改訂新版くらしに役立つ保健体育
保健体育	ライト	新・みんなのほけん 3・4年

教科名・種目名	発行者（略称）	図 書 名
職業・家庭	あかね書房	トリックアート図鑑ペーパークラフト
職業・家庭	岩崎書店	一人前になるための家事の図鑑
職業・家庭	学研	キッチンでおやつマジック大百科
職業・家庭	開隆堂出版	職業・家庭たのしい職業科わたしの夢につながる
職業・家庭	開隆堂出版	職業・家庭たのしい家庭科わたしのくらしに生かす
職業・家庭	開隆堂出版	夢を育む技術、職業－未来に向かって
職業・家庭	さえら	たのしい工作教室ダンボールのたのしい工作教室
職業・家庭	東洋館	改訂新版くらしに役立つ家庭
職業・家庭	山と溪谷社	家庭科の教科書小学校低学年～高学年用
職業・家庭	朝日新聞	かんたん・かわいい・おしゃれ！子どもの手芸レッスンBOOK
職業・家庭	柴田書店	料理はすごい！シェフが先生！小学生から使える、子どものためのはじめての料理本
外国語	旺文社	小学えいご絵じてん800新装三訂版
外国語	旺文社	小学生のための聞ける！話せる！英語辞典
外国語	くもん出版	CD付き英語カードあいさつと話しことば編
外国語	くもん出版	CD付き英語のうたカード
外国語	くもん出版	CD付き英語カードたのしい会話編
外国語	くもん出版	ABCカード
外国語	小学館	タッチペンで音が聞ける！ドラえもんはじめての英語図鑑
外国語	小学館	タッチペンで音が聞ける！はじめてずかん1000はじめてずかん1000英語つき
外国語	成美堂出版	CDつき楽しく歌える英語のうた
外国語	成美堂出版	CDつき小学生の英語レッスン絵でみて学ぼう英会話
外国語	東洋館	くらしに役立つ英語
外国語	主婦と生活	すみっこぐらし学習ドリル小学校で習うはじめての英単語くらし編
外国語	Jリサーチ	小学英語スーパードリル2はじめて英語で言ってみる書いてみるNEW EDITION
外国語	Jリサーチ	英語が得意になる！最初に覚えたい600語ゼロからスタート小学英単語
外国語	すばる舎	10歳からはじめたい！小学生の英語かきとり&ききとり自習ドリル
外国語	NHK出版	NHK CDBOOK中学生になるまでに身につけたい！小学英語パーフェクト・レッスン
外国語	むさし書房	やさしいEnglish基本構文のマスター
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと（6）友だち関係（気持の伝え方）
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと（11）友だち関係（考え方のちがい）
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと12ネットのルール
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと14自信の育て方
道徳	旺文社	学校では教えてくれない大切なこと17夢のかなえ方
道徳	合同出版	イラスト版コミュニケーション図鑑
道徳	草思社	みんなのためのルールブックあたりまえだけど、とても大切なこと
道徳	高橋書店	こころのふしぎなぜ？どうして？
道徳	高橋書店	こころを育てるおはなし101
道徳	永岡書店	10歳までに身につけたい大切なルールとマナー
道徳	ビジネス社	キミたちはどう生きるか？こどものための道徳生き方編
道徳	三輪書店	コグトレみる・きく・想像するための認知機能強化トレーニング

令和7年度使用

教科用図書採択の手順について

令和 7 年度に呉市立小学校、中学校及び義務教育学校で使用する教科
用図書の採択に係る基本方針について

令和 6 年 5 月 3 0 日
呉 市 教 育 委 員 会

1 採択基本方針

(1) 採択の基本

教科用図書は、学校教育において、教科の主たる教材として使用される重要なものであることを認識し、教育基本法や学校教育法で明確に示された教育の理念や目標及び学習指導要領に示された各教科の目標や内容等にとっとり、本市の児童生徒に最も適切な教科用図書を採択する。

また、学校教育法附則第 9 条第 1 項の規定による教科用図書については、児童生徒の障害の状態及び発達段階に適合したものを採択する。

その際、次の観点に基づいて、広島県教育委員会が作成する「選定資料」を活用して十分な調査・研究を行う。

ア 中学校用教科用図書について

- (ア) 知識及び技能の習得
- (イ) 思考力、判断力、表現力等の育成
- (ウ) 主体的に学習に取り組む工夫
- (エ) 内容の構成・配列・分量
- (オ) 内容の表現・表記

イ 学校教育法附則第 9 条第 1 項の規定による教科用図書について

- (ア) 内容の特徴・程度
- (イ) 内容の構成・配列・分量
- (ウ) 内容の表現・表記
- (エ) 印刷・製本の状態

(2) 適正かつ公正な採択の確保

ア 教科書発行者等による宣伝行為等に影響されることなく、採択権者の判断と責任において、採択における適正、公正を期する。

イ 特定の教科書発行者と関係を有する者が教科書採択に関与することがないようにする。

(3) 開かれた採択の推進

ア 採択の結果及び理由について、採択後、遅滞なく公表するものとする。

イ 次の事項について、採択後、遅滞なく公表するものとする。

- (ア) 教科用図書の研究のために資料を作成したときは、その資料

- (イ) 教育委員会の会議の議事録を作成したときは、その議事録
- (ウ) その他開かれた採択を推進する観点から有用と思われる情報

2 方法、組織及び手続

呉市教育委員会は、広島県教育委員会の指導、助言又は援助を受け、次の方法、組織及び手続によって採択を行う。

(1) 小学校用教科用図書について

ア 令和6年度においては、原則、令和5年度と同一の教科用図書を採択しなければならない。

(2) 中学校用教科用図書について

ア 中学校用教科用図書の採択は、文部科学省「中学校用教科書目録（令和7年度使用）」に登載されている教科書のうちから行う。

イ 呉市教育委員会は、採択に係りその責任を明確にするとともに、教育関係者のみならず保護者、地域住民に説明責任を果たすことができるよう、次のとおり、採択組織及び手続を確立する。

(ア) 選定委員会においては

- a 本方針に基づき、調査・研究委員に教科用図書を調査・研究する観点等を示す。
- b 呉市の特色を生かすとともに多様な意見が反映されるよう、呉市立学校に在籍する児童生徒の保護者及び学識経験者に会議への出席を求め、その意見を聴くものとする。
- c 今年度採択する教科用図書について全ての教科等において総合所見を作成し、教育長に提出する。

(イ) 調査・研究委員においては

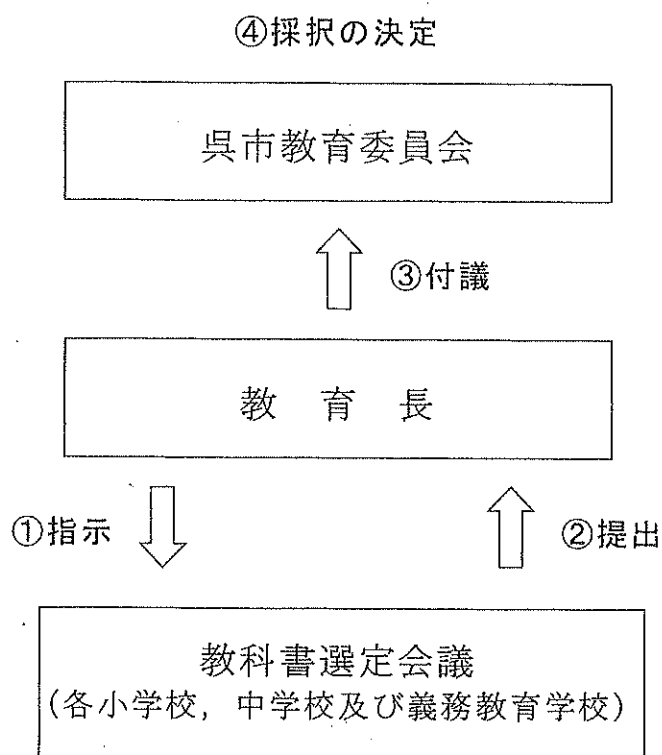
- a 選定委員会から示された観点等に基づき、今年度採択する教科用図書について綿密な調査・研究を行い、報告する。
- b 専門的な調査・研究を行うことから、調査・研究委員は校長及び教員等とする。
- c 採択の公正を期すため、調査・研究委員は選定委員会の委員と重複しない。

(3) 学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書について

ア 特別の教育課程を編成する場合に、文部科学大臣の検定を経た教科用図書（以下「検定済教科用図書」という。）を使用することが適当でない場合には、下学年用検定済教科用図書又は文部科学省著作教科用図書の採択を十分考慮した上、学校教育法附則第9条第1項の規定による教科用図書を採択する。

イ 各学校は、教科書選定会議を設置し、教科用図書を種目ごとに選定するとともに、選定理由書を教育長に提出する。

教科用図書採択の手順【特別支援学級】



- ① 各小学校、中学校及び義務教育学校（以下「各学校」という。）に「令和7年度に呉市立小学校、中学校及び義務教育学校で使用する教科用図書の採択に係る基本方針について」及び日程を示し、教科用図書の選定について指示する。
- ② 各学校は、教科書選定会議を設置し、児童生徒の障害の状況及び発達段階に適合した教科用図書を選定するとともに、選定理由書を提出する。
- ③ 教育長は、教育委員会の会議に付議する。
- ④ 各学校が選定した教科用図書について審議し、会議の議決を経て採択を行う。

令和6年 月 日

呉市教育委員会 様

所属

校長

印

令和6年度教科用図書（義務教育諸学校特別支援学級用）選定会議
の委員について（報告）

次の教職員について、令和6年度教科用図書（義務教育諸学校特別支援学級用）選定会議の委員を任命しました。

なお、令和7年度に使用する教科用図書の採択に当たり、呉市教科用図書の採択に関する規程第5条第3項に規定されているとおり、教科用図書の採択に直接の利害関係を有する者でないこと、また、当該教科用図書の採択に直接の利害関係を有しないまでも、特定の教科書発行者と関係を有するものでないことを確認しております。

職 名	氏 名

入力日	
校番 学校名	
令和7年度の学年	
氏名	
今年度の教育課程	
令和7年度の教育課程	
障害種別	

	検定済教科書 (リスト選択または入力)	選定理由(継続使用の場合は記述なし)
国語		
書写		
社会		
地図		
算数		
理科		
生活		
音楽		
図画工作		
体育(保健) [3～6年]		
家庭		
外国語		
道徳		

入力日	
校番 学校名	
令和7年度の学年	
氏名	
今年度の教育課程	
令和7年度の教育課程	
障害種別	

	検定済教科書 (リスト選択または入力)	選定理由(継続使用の場合は記述なし)
国語		
書写		
社会		
地図		
数学		
理科		
音楽		
器楽		
美術		
保健体育		
技術		
家庭		
外国語		
道徳		

入力日	
校番 学校名	
令和7年度の学年	
氏名	
今年度の教育課程	
令和7年度の教育課程	3
障害種別	

	検定済教科書 (リストより選択または入力)	著作教科書 (リストより選択)	一般図書		図書 番号
			出版社名	書名	
国語					
算数					
生活					
地図					
音楽					
図画工作					
体育(保健) [3～6年]					
道徳					

令和7年度 使用教科用図書(特別支援学級用)の選定理由書(中学校及び義務教育学校後期課程)

入力日	
校番 学校名	
令和7年度の学年	
氏名	
今年度の教育課程	
令和7年度の教育課程	3
障害種別	

	検定済教科書 (リストより選択または入力)	著作教科書 (リストより選択)	一般図書		検定済・著作・一般図書を選定の場合(選定理由記入) 検定済・著作を継続使用の場合(選定理由記入なし) 一般図書を継続使用の場合(出版社名・書名記入)	図書 番号
			出版社名	書名		
国語						
社会						
地図						
数学						
理科						
音楽						
美術						
保健体育						
職業・家庭						
外国語						
道徳						

文部科学省著作教科用図書

せい	かつ	☆	
せい	かつ	☆☆	
せい	かつ	☆☆☆	
こ	く	☆	
こ	く	☆☆	
こ	く	☆☆☆	
こ	く	☆☆☆☆	
国	語	☆☆☆☆☆	
国	語	☆☆☆☆☆☆	
さ	ん	☆	
さ	ん	☆☆ (1) (2)	
さ	ん	☆☆☆	
数	学	☆☆☆☆	
数	学	☆☆☆☆☆	
お	ん	☆	
お	ん	☆☆	
お	ん	☆☆☆	
音	楽	☆☆☆☆	
音	楽	☆☆☆☆☆	
社	会	☆☆☆☆	
社	会	☆☆☆☆☆	
理	科	☆☆☆☆	
理	科	☆☆☆☆☆	
職	業・家	☆☆☆☆	
職	業・家	☆☆☆☆☆	

生 活

学習指導要領に示されている小学部の生活科の目標は、次のとおりである。

○ 小学部

具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- 2 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
- 3 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

また、生活科の小学部では、各段階の目標を設定し、内容は、「基本的生活習慣」、「安全」、「日課・予定」、「遊び」、「人との関わり」、「役割」、「手伝い・仕事」、「金銭の扱い」、「きまり」、「社会の仕組みと公共施設」、「生命・自然」、「ものの仕組みと働き」で構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

小学部 1段階〈 ☆ 〉	
目標	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。 イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。 ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。
内容	ア 基本的生活習慣 食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動しようとする。 (イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。

	イ 安全
	危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。 (1) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。
	ウ 日課・予定
	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。 (1) 簡単な日課について、関心をもつこと。
	エ 遊び
	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。 (1) 身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。
	オ 人との関わり
	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。 (1) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。
	カ 役割
	学級等の集団における役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする。 (1) 集団の中での役割に関心をもつこと。
	キ 手伝い・仕事
	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする。 (1) 簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。
	ク 金銭の扱い
	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

	(ア) 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとすること。 (イ) 金銭の扱い方などに関心をもつこと。
	ケ きまり
	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする。 (イ) 簡単なきまりについて関心をもつこと。
	コ 社会の仕組みと公共施設
	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 (イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。
	サ 生命・自然
	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 (イ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。
	シ ものの仕組みと働き
	身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。 (イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。
小学部 2段階〈 ☆☆ 〉	
目標	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。 ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。

内容	ア 基本的生活習慣
	食事、用便、清潔等の基本的生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする事。 (イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付ける事。
	イ 安全
	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとする事。 (イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付ける事。
	ウ 日課・予定
	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする事。 (イ) 身近な日課・予定について知ること。
	エ 遊び
	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。 (イ) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。
	オ 人との関わり
	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする事。 (イ) 身近な人との接し方などについて知ること。
	カ 役割
	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。 (イ) 簡単な係活動などの役割について知ること。

	キ 手伝い・仕事
	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする事。 (イ) 簡単な手伝いや仕事について知ること。
	ク 金銭の扱い
	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。 (イ) 金銭の扱い方などを知ること。
	ケ きまり
	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする事。 (イ) 簡単なきまりやマナーについて知ること。
	コ 社会の仕組みと公共施設
	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとする事。 (イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。
	サ 生命・自然
	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする事。 (イ) 身近な生命や自然について知ること。

	シ ものの仕組みと働き 身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする事。 (イ) 身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。
小学部 3段階〈☆☆☆〉	
目標	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。 ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。
内容	ア 基本的生活習慣 身の回りの整理や身なりなどの基本的生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 必要な身辺処理や集団での基本的生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする事。 (イ) 日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。
	イ 安全 交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の安全や防災に関心をもち、安全な生活をするよう心がけること。 (イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
	ウ 日課・予定 一週間程度の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする事。 (イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。

	エ 遊び
	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。 (1) きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
	オ 人との関わり
	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な応対などをしようとする。 (1) 身近な人との簡単な応対などをするための知識や技能を身に付けること。
	カ 役割
	様々な集団や地域での役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること。 (1) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
	キ 手伝い・仕事
	自分から調理や製作などの様々な手伝いをすることや学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする。 (1) 手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
	ク 金銭の扱い
	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。 (1) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
	ケ きまり
	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする。 (1) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。

	コ 社会の仕組みと公共施設
	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子，警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり，それらを表現すること。 (4) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり，活用したりすること。
	サ 生命・自然
	身近にいる昆虫，魚，小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり，それらを表現すること。 (4) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
	シ ものの仕組みと働き
	日常生活の中で，ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常生活の中で，ものの仕組みや働きが分かり，それらを表現すること。 (4) ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。

国 語

学習指導要領に示されている小学部の国語科の目標は、次のとおりである。

○ 小学部	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 1 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。 2 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。 3 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。
-------	---

また、国語科の小学部では、各段階の目標を設定し、内容は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」で構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

小学部 1段階〈 ☆ 〉		
目標	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。 イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。 ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	
内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。 イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	A 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。 B 書くこと

	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ロ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ⑧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 (ハ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 文字に興味をもち、書こうとすること。 Ｃ 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しむにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。
小学部 ２段階〈 ☆☆ 〉		
目標	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。 イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。 ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	
内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していること	Ａ 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けた

	を感じることを。 (イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。 (ウ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。 イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ⑧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。 エ 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	り、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。 ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。 エ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。 Ｂ 書くこと 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。 Ｃ 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。 ウ 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。 エ 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣し
--	--	---

		たりすること。
小学部 3段階〈☆☆☆〉		
目標	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。 イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。 ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。	
内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。 (4) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。 (5) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 (エ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (カ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。 (キ) 正しい姿勢で音読すること。 イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 図書を用いた調べ方を理解し	A 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。 B 書くこと 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な

	使うこと。 ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ⑦ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ⑧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。 (エ) 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。	な事柄を集めること。 イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。 ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。 エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。 オ 文などに対して感じたことを伝えること。 Ｃ 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。
--	---	--

学習指導要領に示されている中学部の国語科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

1. 目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資
 質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

また、国語科の中学部では、各段階の目標を設定し、内容は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」で構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉		
目標	ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。 イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。 ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。	
内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 (イ) 発音や声の大きさに気を付けて話すこと。 (ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。 (エ) 言葉には、意味による語句のま	A 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分からないことを聞き返したりして、話の大体を捉えること。 イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝え

	とまりがあることを理解するとともに、話し方や書き方によって意味が異なる語句があることに気付くこと。 (オ) 主語と述語との関係や接続する語句の役割を理解すること。 (カ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うこと。 (キ) 語のまとまりに気を付けて音読すること。 イ 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 事柄の順序など、情報と情報との関係について理解すること。 ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 自然や季節の言葉を取り入れた俳句などを聞いたり作ったりして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 挨拶状などに書かれた語句や文を読んだり書いたりし、季節に応じた表現があることを知ること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ㊦ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 ㊧ 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を書くこと。 (エ) 読書に親しみ、簡単な物語や、自然や季節などの美しさを表した詩や紀行文などがあることを知ること。	る順序等を考えること。 エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すこと。 オ 相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつこと。 B 書くこと 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめること。 イ 相手に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ 文の構成、語句の使い方に気を付けて書くこと。 エ 自分が書いたものを読み返し、間違いを正すこと。 オ 文章に対する感想をもち、伝え合うこと。 C 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 簡単な文や文章を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活に必要な語句や文章などを読み、行動すること。 エ 文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりすること。
--	---	--

中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉

目標	ア 日常生活や社会生活，職業生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に親しむことができるようにする。 イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えをまとめることができるようにする。 ウ 言葉がもつよさに気付くとともに，いろいろな図書に親しみ，国語を大切に，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。	
内容	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等
	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して，言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (イ) 発声や発音に気を付けたり，声の大きさを調節したりして話すこと。 (ウ) 長音，拗音，促音，撥音などの表記や助詞の使い方を理解し，文や文章の中で使うこと。 (エ) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し，使える範囲を広げること。 (オ) 修飾と被修飾との関係，指示する語句の役割について理解すること。 (カ) 敬体と常体があることを理解し，その違いに注意しながら書くこと。 (キ) 内容の大体を意識しながら音読すること。 イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 考えとそれを支える理由など，	A 聞くこと・話すこと 聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 身近な人の話や放送などを聞きながら，聞いたことを簡単に書き留めたり，分からないときは聞き返したりして，内容の大体を捉えること。 イ 相手や目的に応じて，自分の伝えたいことを明確にすること。 ウ 見聞きしたことや経験したこと，自分の意見やその理由について，内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えること。 エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ，速さに気を付けて話したり，必要な話し方を工夫したりすること。 オ 物事を決めるために，簡単な役割や進め方に沿って話し合い，考えをまとめること。 B 書くこと 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 相手や目的を意識して，見聞きしたことや経験したことの中

	情報と情報との関係について理解すること。 (イ) 必要な語や語句の書き留め方や、比べ方などの情報の整理の仕方を理解し使うこと。 ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ) 生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。 (ウ) 書くことに関する次の事項を取り扱うこと。 ⑦ 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 ⑧ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (エ) 幅広く読書に親しみ、本にはいろいろな種類があることを知ること。	から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。 イ 書く内容の中心を決め、自分の考えと理由などとの関係を明確にして、文章の構成を考えること。 ウ 事実と自分の考えとの違いなどが相手に伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 文章を読み返す習慣を身に付け、間違いを正したり、語と語との続き方を確かめたりすること。 オ 文章に対する感想を伝え合い、内容や表現のよいところを見付けること。 Ｃ 読むこと 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。 イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活や社会生活、職業生活に必要な語句、文章、表示などの意味を読み取り、行動すること。 エ 中心となる語句や文を明確にしながら読むこと。 オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
--	---	--

算数・数学

学習指導要領に示されている小学部の算数科の目標は、次のとおりである。

○ 小学部

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。
- 2 日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
- 3 数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

また、算数科（小学部）では、各段階の目標を設定し、領域は１段階が「A 数量の基礎」、２段階が「B 数と計算」、３段階が「C 図形」、及び「D 測定」、４段階が「E 数量の活用」とされている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

小学部 １段階 〈 ☆ 〉	
目標	A 数量の基礎 ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。 ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。 B 数と計算 ア ものの有無や３までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることにについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。 ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。 C 図形 ア 身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることにについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする

	る力を養う。 ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。 D 測定 ア 身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。 ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。			
内容	A 数量の基礎	B 数と計算	C 図形	D 測定
	ア 具体物に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等	ア 数えることの基礎に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものの有無に気付くこと。 ㊧ 目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。 ㊨ 5までの範囲で数唱をすること。 ㊩ 3までの範囲で具体物を取ることを。 ㊪ 対応させてものを配ること。 ㊫ 形や色、位置が変わっても、数は変わらない	ア ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㊧ 形を観点に区別すること。 ㊨ 形が同じものを選ぶこと。 ㊩ 似ている二つのものを結び付けること。 ㊪ 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。	ア 身の回りにある具体物のもつ大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ㊧ ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 大小や多少等で区別すること

	を身に付けること。 ㊦対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。 イ ものともとのを対応させることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ものともとのを対応させて配ること。 ㊧分割した絵カードを組み合わせること。 ㊨関連の深い絵カードを組み合わせること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ものともとの	ことについて気付くこと。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。	㊦ 同じもの同士の集合づくりをすること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。 ㊧ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。 ㊨ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見つけ出し、日常生活で生かすこと。	に関心を持ち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。
--	--	---	---	--------------------------------------

	とを関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。			
数学的活動	ア 内容の「A数量の基礎」、「B数と計算」、「C図形」及び「D測定」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。 (7) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形に関わる活動 (1) 日常生活の問題を取り上げたり算数の問題を具体物などを用いて解決したりして、結果を確かめる活動			
小学部 2段階〈☆☆〉				
目標	A 数と計算 ア 10 までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。 イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。 ウ 数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。 B 図形 ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りのものの形に関心をもち、分類したり、集めたりして、形の性質に気付く力を養う。 ウ 図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。 C 測定 ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。 イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。 ウ 数量や図形に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じなが			

	ら興味をもって学ぶ態度を養う。 D データの活用 ア 身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心を持ち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りのものや身近な出来事のつながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。 ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。			
内容	A 数と計算	B 図形	C 測定	D データの活用
	ア 10 までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ㊧ものの集まりと対応して、数詞が分かること。 ㊨ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。 ㊩個数を正し	ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦色や形、大きさに着目して分類すること。 ㊧身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。 (4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ものを色や形、大きさ、目的、用途及	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ㊧二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ㊨長い・短い、重い・軽い、高い・低い	ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。 (4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心向け、共通点や相違点を考えなが

	く数えたり書き表したりすること。 ④二つの数を比べて数の大小が分かること。 ⑤数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ⑥0の意味について分かること。 ⑦一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ⑧具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること。 ⑨10の補数が分かること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦数詞と数	び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。 イ 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦身の回りにあるものの形に関心を持ち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ④縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ⑥大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。 (イ) 次のような	い及び広い・狭いなどの用語が分かること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに關心をもったり、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	ら、興味をもって分類すること。 イ 同等と多少に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ものとの対応させることによって、ものの同等や多少が分かること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。 ウ ○×を用いた表に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けること
--	--	---	--	--

	字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。	思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 ㊦身の回りにあるものの形に関心に向け，丸や三角，四角を考えながら分けたり，集めたりすること。		ができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。 ④簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。 (4) 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。 ㊦身の回りの出来事を捉え，○×を用いた簡単な表で表現すること。
数学的活動	ア 内容の「A数と計算」，「B図形」，「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については，次のような数学的活動に取り組むものとする。 (7) 身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりする活動 (4) 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり結果を確かめたりする活動 (7) 問題解決した過程や結果を，具体物などを用いて表現する活動			
小学部 3段階 〈 ☆☆☆ 〉				
目標	A 数と計算 ア 100 までの数の概念や表し方について理解し，数に対する感覚を豊かにするとともに，加法，減法の意味について理解し，これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。			

内容	イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。 ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。 B 図形 ア 身の回りのものの形の観察などの活動を通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能及び角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。 ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。 C 測定 ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。 ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。 D データの活用 ア 身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。 ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。			
	A 数と計算 ア 100 までの整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような	B 図形 ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような	C 測定 ア 身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	D データの活用 ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることがで

	知識及び技能を身に付けること。 ㉗20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 ㉘100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。 ㉙数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。 ㉚数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。 ㉛具体物を分配したり等分したりすること。 (イ) 次のような	知識及び技能を身に付けること。 ㉗ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 ㉘具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㉙前後、左、右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉗身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 ㉘身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 ㉙身の回りに	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉗長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ㉘身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比較すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉗身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。 イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導す	きるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉗ものとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。 ㉘身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉗個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。
--	--	---	--	--

	思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。 イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。 ㊦加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊦1位数と1位数との加法の計算ができ	あるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。 イ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦傾斜をつくると角ができることを理解すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。	る。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦日常生活の中で時刻を読むこと。 ㊦時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。	
--	---	---	--	--

	ること。 ㊦ 1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。 ㊧ 減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。 ㊨ 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊩ 20までの数の範囲で減法の計算ができること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊰ 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。			
数学的活動	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。			

	(ア) 身の回りの事象を観察したり，具体物を操作したりして，算数に主体的に関わる活動 (イ) 日常生活の事象から見いだした算数の問題を，具体物，絵図，式などを用いて解決し，結果を確かめる活動 (ウ) 問題解決した過程や結果を，具体物や絵図，式などを用いて表現し，伝え合う活動
--	--

学習指導要領に示されている中学部の数学科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

また、数学科（中学部）では、各段階の目標を設定し、領域は1段階が「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、及び「Dデータの活用」、2段階が「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」、及び「Dデータの活用」とされている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉	
目標	A 数と計算
	ア 3位数程度の整数の概念について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法及び乗法の意味や性質について理解し、これらを計算することについての技能を身に付けるようにする。
	イ 数とその表現や数の関係に着目し、具体物や図などを用いて、数の表し方や計算の仕方などを筋道立てて考えたり、関連付けて考えたりする力を養う。
	ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	B 図形
	ア 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形について理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図したり、構成したりすることなどについての技能を身に付けるようにする。
	イ 三角形や四角形、箱の形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から関連付けて考えたりする力を養う。
	ウ 図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	C 測定
	ア 身の回りにある長さ、体積、重さ及び時間の単位と測定の意味について

	理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、それらを測定することについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りの事象を量に着目して捉え、量の単位を用いて的確に表現する力を養う。 ウ 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 D データの活用 ア 身の回りにあるデータを分類整理して簡単な表やグラフに表したり、それらを問題解決において用いたりすることについての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を養う。 ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気づき、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
内容	A 数と計算	B 図形	C 測定	D データの活用
	ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 1000 までの数をいくつかの同じまとまりに分割したうえで数えたり、分類して数えたりすること。 ㊧ 3 位数の表し方について	ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 直線について知ること。 ㊧ 三角形や四角形について知ること。 ㊨ 正方形、長方形及び直角三角形について知ること。 ㊩ 正方形や長方形で捉えられる	ア 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 目盛の原点を対象の端に当てて測定すること。 ㊧ 長さの単位【ミリメートル (mm)、センチメートル (cm)、メートル (m)、キロメ	ア 身の回りにあるデータを簡単な表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身の回りにある数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。

理解すること。 ㊦数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 ㊦3位数の数系列、順序、大小について、数直線上の目盛りを読んで理解したり、数を表したりすること。 ㊦一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。	箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり、分解したりすること。 ㊦直角、頂点、辺及び面という用語を用いて図形の性質を表現すること。 ㊦基本的な図形が分かり、その図形をかいたり、簡単な図表を作ったりすること。 ㊦正方形、長方形及び直角三角形をかいたり、作ったり、それらを使って平面に敷き詰めたりすること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、図形の性質を見いだし、身の回りのものの形を図形として捉えること。	メートル (km)] や重さの単位 [グラム (g)、キログラム (kg)] について知り、測定の意味を理解すること。 ㊦かさの単位 [ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)] について知り、測定の意味を理解すること。 ㊦長さ、重さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を選択したり、計器を用いて測定したりすること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦身の回りのものの特徴に着目し、目的に適した単位で量の大きさを表現したり、比べたりすること。 イ 時刻や時間に関わる数学的活	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。
--	---	---	---

	イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 2位数の加法及び減法について理解し、その計算ができること。また、それらの筆算の仕方について知ること。 ㉟ 簡単な場合について3位数の加法及び減法の計算の仕方を知ること。 ㊱ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解すること。 ㊲ 計算機を使って、具体的な生活場面における簡単な加法及び減法の計算ができること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付ける		動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊰ 時間の単位(秒)について知ること。 ㊱ 日常生活に必要な時刻や時間を求めること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊰ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。	
--	---	--	---	--

	こと。 ㊦数量の關係に着目し、数を適用する範圍を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。 ウ 整数の乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦乗法が用いられる場合や意味について知ること。 ①乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊦乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。 ①乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算がで			
--	--	--	--	--

	きること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。			
数学的活動	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。 (7) 日常生活の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動 (イ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、式などを用いて表現し伝え合う活動			
中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉				
目標	A 数と計算 ア 整数の概念や性質について理解を深め、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法、乗法及び除法の意味や性質について理解し、それらの計算ができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について知り、数量とその関係を表したり読み取ったりすることができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。 イ 数を構成する単位に着目して、数の表し方やその数について考えたり、扱う数の範囲を広げ、計算の仕方を見だし、筋道立てて考えたりするとともに、日常生活の問題場面を数量に着目して捉え、処理した結果を場面をもとに振り返り、解釈及び判断する力を養う。 ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 B 図形 ア 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形や面積、角の大きさについて理解し、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形を作図や構成したり、図形の面積や角の大きさを求めたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。			

内容	イ 二等辺三角形や正三角形などの基本的な図形を構成する要素に着目して、平面図形の特徴を捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、図形を構成する要素に着目し、図形の計量について考察する力を養う。 ウ 図形や数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 C 変化と関係 ア 二つの数量の関係や変化の様子を表や式、グラフで表すことについて理解するとともに、二つの数量の関係を割合によって比べることについての技能を身に付けるようにする。 イ 伴って変わる二つの数量の關係に着目し、変化の特徴に気づき、二つの数量の關係を表や式、グラフを用いて考察したり、割合を用いて考察したりする力を養う。 ウ 数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 D データの活用 ア データを表や棒グラフ、折れ線グラフで表す表し方や読み取り方を理解し、それらを問題解決における用い方についての技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りの事象について整理されたデータの特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。 ウ データの活用に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。			
	A 数と計算 ア 整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。	B 図形 ア 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦二等辺三角	C 変化と関係 ア 伴って変わる二つの数量に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。	D データの活用 ア データを表やグラフで表したり、読み取ったりすることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能

	㊦ 4 位数までの十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について、理解すること。 ㊧ 10 倍、100 倍、1/10 の大きさの数及びその表し方について知ること。 ㊨ 数を千を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解を深めること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊩ 数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。 イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	形、正三角形などについて知り、作図などを通してそれらの関係に着目すること。 ㊪ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスなどを用いて作図すること。 ㊫ 基本的な図形と関連して角について知ること。 ㊬ 直線の平行や垂直の関係について理解すること。 ㊭ 円について、中心、半径及び直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊮ 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察して、図形の性質を見いだすことと	㊯ 変化の様子を表や式を用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊰ 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を考察すること。 イ 二つの数量の関係に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊱ 簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること。 (イ) 次のような	を身に付けること。 ㊲ データを日時や場所などの観点から分類及び整理し、表や棒グラフで表したり、読んだりすること。 ㊳ データを二つの観点から分類及び整理し、折れ線グラフで表したり、読み取ったりすること。 ㊴ 表や棒グラフ、折れ線グラフの意味やその使い方を理解すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊵ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、表や棒グラフを用いながら、読み取ったり、考察したり、結論を表現したりすること。 ㊶ 目的に応じてデータを集めて
--	--	--	--	---

	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について理解し、計算ができること。また、それらの筆算についての仕方をすること。 ⑧ 加法及び減法に関して成り立つ性質を理解すること。 ⑨ 計算機を使って、具体的な生活場面における加法及び減法の計算ができること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数量の関係に着目し、数の適用範囲を広げ、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。 ウ 整数の乗法に	もに、その性質を基に既習の図形を捉え直すこと。 イ 面積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 面積の単位 [平方センチメートル (cm²), 平方メートル (m²), 平方キロメートル (km²)] について知り、測定の意味について理解すること。 ⑧ 正方形及び長方形の面積の求め方について知ること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 面積の単位に着目し、図形の面積について、求め方を考えたり、計算して表	思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 日常生活における数量の関係に着目し、図や式を用いて、二つの数量の関係を考察すること。	分類及び整理し、データの特徴や傾向を見つけて、適切なグラフを用いて表現したり、考察したりすること。
--	---	--	--	--

	関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 1位数と1位数との乗法の計算ができ、それを適切に用いること。 ① 交換法則や分配法則といった乗法に関して成り立つ性質を理解すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活で生かすこと。 エ 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付	したりすること。 ウ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 角の大きさを回転の大きさとして捉えること。 ① 角の大きさの単位（度（$^{\circ}$））について知り、測定の意味について理解すること。 ⑨ 角の大きさを測定すること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 角の大きさの単位に着目し、図形の角の大きさを的確に表現して比較したり、図形の考察に生かしたりす		
--	--	---	--	--

	けることができ るよう指導す る。 (7) 次のような 知識及び技能 を身に付ける こと。 ㊦除法が用いら れる場合や意味 について理解す ること。 ㊧除法が用いら れる場面を式に 表したり、式を 読み取ったりす ること。 ㊨除法と乗法と の関係について 理解すること。 ㊩除数と商が共 に1位数である 除法の計算がで きること。 ㊪余りについて 知り、余りの求 め方が分かるこ と。 (4) 次のような 思考力、判断 力、表現力等 を身に付ける こと。 ㊦数量の関係に 着目し、計算に 関して成り立つ 性質や計算の仕 方を見いだすと ともに、日常生	ること。		
--	--	-------------	--	--

	活に生かすこと。 オ 小数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知ること。 ㊧$1/10$の位までの小数の仕組みや表し方について理解すること。 (4) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦数のまとまりに着目し、数の表し方の適用範囲を広げ、日常生活に生かすこと。 カ 分数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることがで			
--	---	--	--	--

	きるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ $1/2$, $1/4$ など簡単な分数について知ること。 (イ) 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。 ㊦ 数のまとまりに着目し, 数の表し方の適用範囲を広げ, 日常生活に生かすこと。 キ 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 数量の関係を式に表したり, 式と図を関連付けたりすること。 ㊦ □などを用い			
--	--	--	--	--

	て数量の関係を式に表すことができることを知ること。 ⑥□などに数を当てはめて調べること。 (イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦数量の關係に着目し、事柄や關係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。			
数学的活動	〔数学的活動〕 ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。 (ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数学の学習に関わる活動 (イ) 日常の事象から見いだした数学の問題を、具体物や図、表及び式などを用いて解決し、結果を確かめたり、日常生活に生かしたりする活動 (ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や図、表、式などを用いて表現し伝える活動			

音楽

学習指導要領に示されている小学部の音楽科の目標は、次のとおりである。

○ 小学部

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
- 2 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。
- 3 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

また、音楽科（小学部）では、各段階の目標を設定し、内容は「A表現」（「音楽遊び」、「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」、「身体表現」の五分野）、「B鑑賞」の2つの領域と〔共通事項〕で構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

小学部 1段階〈 ☆ 〉		
目標	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。 イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。 ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。	
内容	A 表現	B 鑑賞
	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。 (イ) 表現する音や音楽に気付くこと。 (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。 (イ) 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。

	㊦音や音楽を感じて体を動かす技能 ①音や音楽を感じて楽器の音を出す技能 ㊩音や音楽を感じて声を出す技能	
小学部 2段階〈☆☆〉		
目標	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。 イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。 ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。	
内容	A 表現	B 鑑賞
	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び①について気付くこと。 ㊦曲の特徴的なリズムと旋律 ①曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉 (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㊦から㊩までの技能を身に付けること。 ㊦範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する技能 ①自分の歌声に注意を向けて歌う技能 ㊩教師や友達と一緒に歌う技能 イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。 (イ) 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。

	する。 (7) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦拍や曲の特徴的なリズム ㊧楽器の音色の違い (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦範奏を聴き、模倣をして演奏する技能 ㊧身近な打楽器を演奏する技能 ㊧教師や友達と一緒に演奏する技能 ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㊦及び㊧をできるようにすること。 ㊦音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。 ㊧音や音楽で表現することについて思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ㊦声や身の回りの様々な音の特徴 ㊧音のつなげ方の特徴 (ウ) 気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の㊦及び㊧の技能を身に付けること。	
--	---	--

	⑦音を選んだりつなげたりして、表現する技能 ①教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能 エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。 (1) 次の⑦及び①について気付くこと。 ⑦拍や曲の特徴的なリズム ①曲名と動きとの関わり (ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の⑦から①までの技能を身に付けること。 ⑦示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ①音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能 ①教師や友達と一緒に体を動かす技能	
小学部 3段階〈☆☆☆〉		
目標	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。 イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。 ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	
内容	A 表現	B 鑑賞
	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

	導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，歌唱表現に対する思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㊧曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり (ウ) 思いに合った歌い方で歌うために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦範唱を聴いて歌ったり，歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能 ㊧自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ㊨教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能 イ 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，器楽表現に対する思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦リズム，速度や強弱の違い ㊧演奏の仕方による楽器の音色の違い (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能	導する。 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら，曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。 (イ) 曲想や楽器の音色，リズムや速度，旋律の特徴に気付くこと。
--	--	---

	①身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ②教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能 ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。 ⑦音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ⑧どのように音を音楽にしているかについて思いをもつこと。 (イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに関わって気付くこと。 ⑦声や身の回りの様々な音の特徴 ⑧簡単なリズム・パターンの特徴 (ウ) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び⑧の技能を身に付けること。 ⑦音を選んだりつなげたりして表現する技能 ⑧教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能 エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことにつ	
--	---	--

	いて思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧の関わりについて気付くこと。 ㊦曲のリズム，速度，旋律 ㊧曲名，拍やリズムを表す言葉 やかけ声，歌詞の一部 (ウ) 思いに合った体の動きで表現するために必要な次の㊦から㊨までの技能を身に付けること。 ㊦示範を見たり，拍やリズム， 旋律を意識したりして，身体 表現をする技能 ㊧音や音楽を聴いて，様々な体 の動きで表現する技能 ㊨教師や友達と一緒に体を使っ て表現する技能	
共通事項		
(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さ，美しさを感じ取りながら，聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。 イ 絵譜や色を用いた音符，休符，記号や用語について，音楽における働きと関わらせて，その意味に触れること。		

学習指導要領に示されている中学部の音楽科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えると、曲や演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

また、音楽科（中学部）では、各段階の目標を設定し、内容は「A表現」（「歌唱」、「器楽」、「音楽づくり」の4分野）、「B鑑賞」の2つの領域と【共通事項】で構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉		
目標	ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。 イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。 ウ 進んで音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	
内容	A 表現	B 鑑賞
	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ㊧曲想と歌詞の表す情景やイメ	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだして聴くこと。 (イ) 曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。

	ージとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 範唱を聴いて歌ったり，歌詞を見て歌ったりする技能 ㉘ 発声の仕方に気を付けて歌う技能 ㉙ 友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌う技能 イ 器楽の活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら，曲の雰囲気合いに合いそうな表現を工夫し，器楽表現に対する思いや意図をもつこと。 (イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗ 曲の雰囲気と音楽の構造との関わり ㉘ 楽器の音色と全体の響きとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㉗から㉙までの技能を身に付けること。 ㉗ 簡単な楽譜を見てリズムや速度を意識して演奏する技能 ㉘ 音色や響きに気を付けて，打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ㉙ 友達の楽器の音や伴奏を聴いて，音を合わせて演奏する技能 ウ 音楽づくりの活動を通して，次の事項を身に付けることができる	
--	---	--

	よう指導する。 (7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㉗及び㉘をできるようにすること。 ㉗音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。 ㉘音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。 (イ) 次の㉗及び㉘について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。 ㉗いろいろな音の響きの特徴 ㉘リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴 (ウ) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㉗及び㉘の技能を身に付けること。 ㉗設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能 ㉘音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽をつくる技能 エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについての思いや意図をもつこと。 (イ) 次の㉗及び㉘の関わりについて気付くこと。 ㉗曲の雰囲気と音楽の構造との関わり	
--	--	--

	④曲名や歌詞と体の動きとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の⑦から⑩までの技能を身に付けること。 ⑦示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて身体表現したりする技能 ⑧音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせて身体表現をする技能 ⑩友達と動きを合わせて表現する技能	
中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉		
目標	ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。 イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。 ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。	
内容	A 表現	B 鑑賞
	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。 (イ) 次の⑦及び⑧について理解すること。 ⑦曲名や曲想と音楽の構造との関わり ⑧曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 (イ) 曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。

	(ウ) 思いや意図にふさわしい歌い方で歌うために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦歌詞やリズム、音の高さ等を意識して歌う技能 ㊧呼吸及び発音の仕方に気を付けて歌う技能 ㊨独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする技能 イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、器楽表現に対する思いや意図をもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について理解すること。 ㊦曲想と音楽の構造との関わり ㊧多様な楽器の音色と全体の響きとの関わり (ウ) 思いや意図にふさわしい表現をするために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦簡単な楽譜を見てリズムや速度、音色などを意識して、演奏する技能 ㊧打楽器や旋律楽器の基本的な扱いを意識して、音色や響きに気を付けて演奏する技能 ㊨友達の楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏する技能 ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができる	
--	--	--

よう指導する。

(7) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の㊦及び㊧をできるようにすること。

㊦即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。

㊧音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。

(1) 次の㊦及び㊧について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて理解すること。

㊦いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴

㊧リズム・パターンや短い旋律のつなぎ方や重ね方の特徴

(7) 発想を生かした表現、思いや意図に合った表現をするために必要な次の㊦及び㊧の技能を身に付けること。

㊦設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

㊧音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる技能

エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、リズムの特徴や曲想を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。

(1) 次の㊦及び㊧の関わりについて理解すること。

㊦曲想と音楽の構造との関わり

㊧曲名や歌詞と体の動きとの関

	わり (ウ) 思いや意図にふさわしい動きで表現するために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦ 示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能、 ㊧ 音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせるまとまりのある表現をする技能 ㊨ 友達と動きを相談して、合わせて表現する技能	
共通事項		
(1) 1段階と2段階の「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。		

社 会

学習指導要領に示されている中学部の社会科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- 1 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや役割，地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について，具体的な活動や体験を通して理解するとともに，経験したことと関連付けて，調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 2 社会的事象について，自分の生活と結び付けて具体的に考え，社会との関わりの中で，選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- 3 社会に主体的に関わろうとする態度を養い，地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。

また，社会科（中学部）では，各段階の目標を設定し，内容は「ア 社会参加ときまり」「イ 公共施設と制度」「ウ 地域の安全」「エ 産業と生活」「オ 我が国の地理や歴史」「カ 外国の様子」の6つで構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉	
目標	日常生活に関わる社会的事象が分かり，地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。 ア 身近な地域や市区町村の地理的環境，地域の安全を守るための諸活動，地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり，公共施設の役割及び外国の様子について，具体的な活動や体験を通して，自分との関わりが分かるとともに，調べまとめる技能を身に付けるようにする。 イ 社会的事象について，自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。 ウ 身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち，地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。
内容	ア 社会参加ときまり (7) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 学級や学校の中で，自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど，集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。 ㊩ 集団生活の中で何が必要かに気付き，自分の役割を考え，表現する

	こと。 (イ) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。 ⑧ 社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。
	イ 公共施設と制度
	(ア) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。 ⑧ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。 (イ) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 身近な生活に関する制度が分かること。 ⑧ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。
	ウ 地域の安全
	(ア) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。 ⑧ 地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに関わる人々の働きを考え、表現すること。
	エ 産業と生活
	(ア) 仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。 ⑧ 仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。 (イ) 身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。 ⑧ 消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。

	オ 我が国の地理や歴史	
	(ア) 身近な地域や市区町村（以下第2章第2節第2款において「市」という。）の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。	
	⑧ 都道府県（以下第2章第2節第2款第1〔社会〕(2)内容において「県」という。）内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。	
	(イ) 身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	⑦ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知ること。	
	⑧ 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	
	カ 外国の様子	
	(ア) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	⑦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。	
	⑧ そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。	
中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉		
目標	日常生活に関わる社会的事象について理解し、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	
	ア 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。 イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。 ウ 社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	
内容	ア 社会参加ときまり	
	(ア) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
	⑦ 学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。	

	④ 周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。 (イ) 社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であることを理解すること。 ④ 社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。
	イ 公共施設と制度
	(ア) 公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ④ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。 (イ) 制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 社会に関する基本的な制度について理解すること。 ④ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。
	ウ 地域の安全
	(ア) 地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。 ④ 過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。
	エ 産業と生活
	(ア) 県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。 ④ 人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。 (イ) 生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ㊦ 水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。

	④ 供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
	オ 我が国の地理や歴史
	(7) 身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 自分たちの県の概要を理解すること。 ④ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。 (4) 県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ること。 ④ 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。
	カ 外国の様子
	(7) 世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 文化や風習の特徴や違いを理解すること。 ④ 人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。 (4) 世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ⑦ 人々の生活の様子を大まかに理解すること。 ④ 世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。

理 科

学習指導要領に示されている中学部の理科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
- 2 観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。
- 3 自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

また、理科（中学部）では、各段階の目標を設定し、内容は「A 生命」「B 地球・自然」「C 物質・エネルギー」の3つで構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉	
目標	A 生命 ア 身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。 ウ 身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。 B 地球・自然 ア 太陽と地面の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 太陽と地面の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。 ウ 太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。 C 物質・エネルギー ア 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。

	ウ 物の性質，風やゴムの力の働き，光や音の性質，磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ，学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。
内容	A 生命
	ア 身の回りの生物 身の回りの生物について，探したり育てたりする中で，生物の姿に着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 生物は，色，形，大きさなど，姿に違いがあること。 ⑧ 昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。 (イ) 身の回りの生物について調べる中で，差異点や共通点に気付き，生物の姿についての疑問をもち，表現すること。
	B 地球・自然
	ア 太陽と地面の様子 太陽と地面の様子との関係について，日なたと日陰の様子に着目して，それらを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 日陰は太陽の光を遮るとできること。 ⑧ 地面は太陽によって暖められ，日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。 (イ) 日なたと日陰の様子について調べる中で，差異点や共通点に気付き，太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち，表現すること。
	C 物質・エネルギー
	ア 物と重さ 物の性質について，形や体積に着目して，重さを比較しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ⑦ 物は，形が変わっても重さは変わらないこと。 ⑧ 物は，体積が同じでも重さは違うことがあること。 (イ) 物の形や体積と重さとの関係について調べる中で，差異点や共通点に気付き，物の性質についての疑問をもち，表現すること。 イ 風やゴムの力の働き 風やゴムの力の働きについて，力と物の動く様子に着目して，それらを

比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。

㊧ ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。

(4) 風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。

ウ 光や音の性質

光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 日光は直進すること。

㊧ 物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。

㊨ 物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。

(4) 光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。

エ 磁石の性質

磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。

㊧ 磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。

(4) 磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気づき、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。

オ 電気の通り道

電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通ずときと通さないときのつなぎ方を比

	較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ㊦ 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。 ㊧ 電気を通す物と通さない物があること。 (4) 乾電池と豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。
中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉	
目標	A 生命 ア 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。 ウ 人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境の関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。 B 地球・自然 ア 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。 ウ 雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。 C 物質・エネルギー ア 水や空気の性質についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。 イ 水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。 ウ 水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
内容	A 生命 ア 人の体のつくりと運動 人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらを

関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 人の体には骨と筋肉があること。

㊧ 人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。

(1) 人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。

イ 季節と生物

身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらに関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

㊧ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

(1) 身近な動物の活動や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。

B 地球・自然

ア 雨水の行方と地面の様子

雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。

㊧ 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。

(1) 雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。

イ 天気の様子

天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(7) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。

㊦ 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること。

	④ 水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。 (イ) 天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 ウ 月と星 月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ② 月は日によって形が変わって見え、1日のうちでも時刻によって位置が変わること。 ③ 空には、明るさや色の違う星があること。 (イ) 月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。 C 物質・エネルギー ア 水や空気と温度 水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ② 水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。 ③ 水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。 (イ) 水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
--	--

職業・家庭科

学習指導要領に示されている中学部の職業・家庭科の目標は、次のとおりである。

○ 中学部

生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 1 生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
- 2 将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。
- 3 よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

また、職業・家庭科（中学部）では、各段階の目標を設定し、内容は職業分野「A 職業生活」「B 情報機器の活用」「C 産業現場等における実習」と、家庭分野「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の3つで構成されている。各段階の目標と内容は次のとおりである。

中学部 1段階〈 ☆☆☆☆ 〉	
目標	職業分野 職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。 イ 将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。 ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。
	家庭分野 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ア 家庭の中の自分の役割に気づき、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。

	ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。
内容	職業分野「A 職業生活」
	ア 働くことの意義 働くことに興味をもち、作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 働くことの目的などを知ること。 (イ) 意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。 (ウ) 作業や実習等で達成感を得ること。
	イ 職業 職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (ア) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ① 職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ② 職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ③ 材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ④ 作業課題が分かり、使用する道具等の扱い方に慣れること。 ⑤ 作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 (イ) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ① 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ② 作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ③ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。
	職業分野「B 情報機器の活用」
	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。 イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。
	職業分野「C 産業現場等における実習」
	実践的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 職業や進路に関わることについて興味をもったり、調べたりすること。 イ 職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。

	家庭分野「A 家族・家庭生活」 ア 自分の成長と家族 自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 (4) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることの気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。 イ 家庭生活と役割 家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 家庭における役割や地域との関わりについて関心を持ち、知ること。 (4) 家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。 ウ 家庭生活における余暇 家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとする事。 (4) 望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。 エ 幼児の生活と家族 幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 幼児の特徴や過ごし方について知ること。 (4) 幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。 家庭分野「B 衣食住の生活」 ア 食事の役割 食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 健康な生活と食事の役割について知ること。 (4) 適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。 イ 調理の基礎 必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。 (4) 簡単な調理計画について考えること。
--	---

	ウ 衣服の着用と手入れ 衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする事。 (4) 日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。 エ 快適な住まい方 持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする事。 (4) 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。
	家庭分野「C 消費生活・環境」
	ア 身近な消費生活 買物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする事。 (4) 生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うことしたりすること。 イ 環境に配慮した生活 身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとする事。 (4) 身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。
	中学部 2段階〈 ☆☆☆☆☆ 〉
目標	職業分野 職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。 イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

	家庭分野 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ア 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。 ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。
内容	職業分野「A 職業生活」
	ア 働くことの意義 働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 働くことの目的などを理解すること。 (4) 意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 (9) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むこと。 イ 職業 職業に関わる事柄について、考えを深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㉞ 職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㉟ 職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㊱ 材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㊲ 作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㊳ 作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。 (4) 職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㉞ 職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㉟ 作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㊱ 職業生活に必要な健康管理について考えること。

	職業分野「B 情報機器の活用」
	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。 イ コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。
	職業分野「C 産業現場等における実習」
	実地的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。 イ 職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。
	家庭分野「A 家族・家庭生活」
	ア 自分の成長と家族 自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 (4) 家族とのやりとりを通して、家族を大切にしたい気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。
	イ 家庭生活と役割 家庭生活での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 (4) 家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。
	ウ 家庭生活における余暇 家庭生活における健康や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 (4) 望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。
	エ 家族や地域の人々との関わり 家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。 (4) 家族との触れ合いや地域生活に関心を持ち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気づき、表現すること。

	家庭分野「B 衣食住の生活」 ア 食事の役割 楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。 (4) 日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。 イ 栄養を考えた食事 バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 (4) バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。 ウ 調理の基礎 食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 (4) 調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。 エ 衣服の着用と手入れ 衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (4) 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。 オ 快適で安全な住まい方 住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 (4) 季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫すること。 家庭分野「C 消費生活・環境」 ア 身近な消費生活 身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (7) 生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 (4) 生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。 イ 環境に配慮した生活 自分の生活と環境との関連などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
--	--

	(7) 身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 (4) 身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。
--	--